

# 受診控え死3年連続増

「困窮がせん 手遅れ…」

経済的な理由で受診を控えた末に、手遅れ状態となり死亡した人が3年連続で増えていることが、19日、東京都内で全日本民医連機関連合会（全日本民医連）が発表した調査報告で明らかになりました。無保険や医療機関の窓口負担が背景にあるとみてています。

## 全日本民医連 23年調査

調査は、全日本民医連所、歯科の700事業連加盟の病院や診療所を行いました。



2023年の「手遅れ死」事例調査の結果を報告する全日本民医連の人たち=19日、東京都千代田区

受診前に無保険だった事例は22件（46%）でした。保険料が払えず、無保険だった70代男性は、2年前にすい臓がんと診断されました。姉が保険料を負担し短期保険証の発行を受けて、抗がん剤治療を開始。ただ、1回5万円が必要だったので1回で断念しました。その後、また無保険になり、衰弱しているところを発見されて救急搬送されました。がんは末期の状態でした。

一方、24件（49%）は国民健康保険証などの保険証を所持していました。がんと診断され治療を勧められた80代男性は、「入院になれば（医療費が）高額になる」として治療を諦めました。その後、痛みに耐えられず救急車を呼びました。がんは多臓器に転移していました。報告書は、「保険証を持っていますが、窓口負担などが理由で受診できない実態がうかがえる」と述べています。

事業所への相談・受診に至った経路では、「救急搬送」が21件となり、「困窮から受診をがまんし、限界に達した事例」としています。報告書は、「無保険者をつぶらせない抜本的な対策や医療費の窓口負担はなくすべきだと述べています。金見で全日本民医連は、「事例は水戸の一角だ」と指摘しました。